

4・25 全学学生大会に向け

一 4・26～28(金)アリーナードストを開いとれ!

一 現行大学に逆縁の炎を叩きつけよ!

一 安保、沖縄開墾に決起せよ!!

文化部連合会本部委員会

70年・71年「政治危機」を迎へ、新たな人民の闘いは対外の進撃を開始した。これに対しアルジョアジーは、その本性を露げ出し、国民の「史的崇高感高揚吹き産業殺し」としている。大学レベルに於ける「ソシアル的弾圧の表われは、その一端にすぎず、学生の権力に対する告発の行動が如何なる点に於いてなされようとも、権力の遊説隣に触れるが故に、彼うは何人としてもこれを压殺しなければならぬのである。

权力の人間に对する攻撃は、物理的型態に於いてのみなられるのではなく、帝國主義時代の最も主要な支配の環であるイデオロギー攻撃を執拗に繰り返し行なれるのである。支配者か社会的に組織したところの「教育」という名の下、かゝるアルジョアの支配イデオロギーは、人民に沿ひせかけられ、又日々再生产される場として、大学は存在するのである。我々が脇黙のうちに存在することを支配者隠し、权力に逆らす、彼らの道どしたイデオロギーによつて武装された我々はが、るイデオロギーによつて資本の奴隸になることを断固として拒む。かゝる支配者の野望を、教育の名の下、社會的要請といふ論理によつて、意緒的にみたさんと欲し、尚かつ自らの汚らしい姿を日々の下にさらして、現行大学を我々激しい怒りをもつて告発する。現在、大学に抱く幻想が如何に無残な自己の姿とさらけ出すかを我々は知っている。「大学共同体論存するものが如何に夢想の現実であったことか!...」。大学が自ら「教育資本」として「命じてやるを得ない現状、学生の如何に!...」やかに幻想をあにと/orで、大学は察し得ない姿となつてゐるのである。我々は現行大学に許されざる者として自らを位置づけ、自己と厳しく告発するところから大学に切り込んでいかなければならぬのである。我々は自己の犯罪的日常性を厳しく告発し、かゝる思想的前奏をもつて、新たなる「改革の論理」を構築しなければならぬ。今ちつて、大学と社会を剥離させ、大学は研究・教育(科学)は良いが社会は悪いとする全く主張を欠落させて大部分がある。こうした部分が秩序派として右翼的に、過去、幾度か学生の肩書き権力とともに弹性しこそしたが我々は知つて、いる。論理的矛盾は裏面もしくはりりかして、学生の闘いに對応することは、本質として权力とともにあることを確認しなければならない。大学へ科學へが良くて、社会が悪いとする全く主張を欠落させて大部分がある。こうした部分が秩序派の攻撃と、我々は漸回として粉碎しなりぬはならぬ。擬制的へ日常性へを自己告発し、現行大学に对する反対の闘いを開始せよ!